

これまで本講座では主として論説文を取り上げ、文章の論理展開を追い、著者の見解を汲み取ることが目標としてきた。また前章では、表現や語り口に重きを置く随筆の場合も、論説文と方法論が共通することを説明した。だが、本章で取り上げる小説・会話文では、アプローチがこれまでと大きく異なる。小説・会話文の場合、注目するのは客観的な「論理」「結論」ではなく、登場人物個々の「思い」や「行動の動機」となるからだ。小説・会話文を読みにくいと感じる人が多いのは、気持ちや心理のような曖昧なものを読み取らねばならないからだろう。しかし、小説・会話文にも、客観的アプローチは必要であり、また可能である。そうでなければ、試験問題として成立しない。本章では、小説・会話文に対する客観的アプローチを探っていくことにしよう。

1. 5W1H

戯曲や映画の台本を見ると、冒頭のト書きの部分で場所・時間・登場人物が説明されていることが多い。「場所」= where (どこで), 「時間」= when (いつ), 「人物」= who (誰が) は、物語や会話における設定の土台なのである。また、物語や会話が進行していくにつれて、さらに「出来事」= what (何が), 「行為の理由」= why (なぜ), 「行為の方法」= how (どのように) も明らかになっていく。これらの疑問詞で表される要素をまとめて「5W1H」と呼ぶ。物語や会話を5W1Hという要素に還元して分析することが、小説・会話文を理解する入り口となる。

それでは、5W1Hのそれぞれについて、細かく見ていこう。

① Who

登場人物を最初に確認しよう。登場人物の人数、性別、性格、相互関係、年齢、職業といった情報を可能な限り押さえておく。こういった情報が明示されていないとしても、文中にちりばめられたヒントを活用して推測することが重要。また、名前だけ登場する人物にも要注意。その場面やその他の人物の行動とどのように関係しているのかをつかむようにする。

なお、小説や会話では、登場人物の性格や心の動きが展開のポイントとなることが多いので、直接的に描写されていない場合でも、会話や口調、仕草や態度の描写を通して、把握するようにしたい。

② What

その場面で問題になっているものは何かをつかむ。

③ When

過去・現在・未来のいつかという大枠の他に、季節、月、曜日、時間帯などにも注意。

④ Where

登場人物にとってなじみの場所なのか、初めての土地なのか、都会か地方か、室内か戸外かといった話の舞台をつかむ。また、話の中で場所が移動する場合もあるので、地名など場所を示す情報には注意を払おう。

⑤ Why

問題となっていることがどんな原因・理由から起こったのか、また登場人物がある行為や態度をとるのはなぜかを読み取るようにする。

⑥ How

登場人物が実際にどのように行動し、どのような手段をとったのかに注目する。

2. 文中のヒントから心理の動きを把握

小説や会話文では、登場人物の心情や行動の動機が明示されないことが多い。そのために、登場人物の心理を勝手に想像してしまったり、先入観で解釈してしまったりして、結果として読解できなかつたり、設問に答えられなかつたりするケースがある。小説・会話文を苦手とする人にこそ、客観的なアプローチが必要だ。もちろん、小説・会話に論説文のような論理展開を求めるのは筋違いだが、人間の心理や行動に共通する基盤を書き手と読み手が共有しているというのが、小説や会話文を用いた設問の前提である。よって、心理的要素が設問になる場合、正解の根拠となる描写部分が文中に存在すると考えること。例えば、「彼女は寂しかった」というような直接的な表現を避け、「聞く者がいないことを知りつつ、1人呟いた」「1人見上げた夜空が妙によそよそしかった」などと、仕草や情景の描写を通して心理の動きを描写することもある。こういった間接的描写を最大限に利用することが小説・会話文攻略のコツである。

★ 欠落した情報はあきらめる

私たちが入試で目にするほとんどの英語長文は、長い文章の一部を抜粋したものである。これは、評論文、随筆、小説のいずれでも変わりはない。ただし、論説文・随筆文からの抜粋は、ある見解なり考えがまとめて述べられているため独立した文章として読めることが多いのに対し、小説からの抜粋は登場人物の性格や、人間関係、出来事の背景といった、物語を読み進める上で必要な情報が含まれていない場合が多い。この情報の欠落も入試の小説が読みにくい理由の1つだと言えよう。場合によっては、読み取れない情報に関しては仕方ないと割り切ることも必要である。

3. 例題分析

≈ 中略 ≈

全訳

私は、ソルトレイク・シティー駅構内の電話から、バーニーに電話をかけた。彼女は朝のコーヒーを飲んでた。

「昨夜は電話しなくてごめんなさい、バーニー。寝過ごしてラヴロックを通ったのに気づかなかったの。」私は彼女に言った。

「そんなことだと思ったわ。でも、だからといって心配せずに済んだわけではなかったのよ。」彼女は言った。「元気にしてる？」

私は、その言葉にどう返事をするべきだったのだろうか。アリスといろいろあったすぐ後で、私はバーニーに本当のことを伝えたかった。でも、もし私が寂しがって、家が恋しくなっていると彼女が知れば、引き返して戻って来いと言うだろう。私はそれに対して、嫌だと言えるかどうかわからなかった。そして、もっと困ったことには、嫌だと言わねばならない理由を覚えているかどうかもわからなかったのだ。

大柄な赤ら顔の男性が私の真ん前で立ち止まり、太くて黒い葉巻に火をつけた。彼は何度かその葉巻をふかし、唇をすばめてマッチの火を吹き消した。柔らかく聞き慣れた音が、灰色の煙の流れに乗って、空気を伝わってきた。スーフ、と。そして、私は思い出した。

「あなた、大丈夫なの。」バーニーが言った。

「ええ、バーニー。」私は言った。「何ともないわよ。」

回線からバチッと音がした。

「きゃあ！今の聞こえた？」彼女は言った。

「何かしら？」

「雷雨よ。今日こっちはね、バケツをひっくり返したみたいなどしゃ降りなの。」彼女は言った。「あなたのママが雨を好きかどうか知っているでしょ。雨が降り出してからずっと、彼女は布団の下に隠れたままよ。」

さらにバチバチと音がし、それから回線はジュツと音を立てて、静かになった。

「まだ、そこにいるの、バーニー、バーニー？」

「落ち着いて。私はちゃんとここにいるわよ。」彼女は言った。「赤い画びょうをソルトレイク・シティーの真上に刺しているところよ。あなたがどこにいるか正確にわかるようにね。いつものやり方でね…」

回線が再びバチバチと音を立て、ジュツと音がした。今度は静かになった時、彼女の声はもう聞こえなかった。

「バーニー？ バーニー？」私は電話口に向かって叫んだ。

私は受話器を強く耳に押し当てながら、しばらくの間、そこに立ち尽くした。しかし、彼女の声は聞こえなかった。もう一度彼女に電話している時間はなかった。実際、私は遅れずにバスに戻るために、走らなければならなかった。幸いにも、運転手は注意を払っていなかったし、ひょっとしたらアリスがもはや私と一緒にではないことをまったく気にもしていないのかもしれない。

私は新しい席を見つけ、1人で座った。次の停車地であるワイオミング州ロック・スプリングスに着くまで、寝たり起きたりしていた。運転手はそこで交替したが、バスはそのままだった。だから、どれほどバーニーの声を聞きたいと思っても、乗り遅れたりしないようにバスにとどまっていようと決めた。新しい運転手が、私が1人で旅をしていることについて（前の運転手と）同じように感じているかどうかもわからなかったし、私の支えになってくれる新しい誰かを見つけねばならない事態に立ち向かう気にはまったくなれなかった。私は2つ目のハムサンドイッチを、食べ切るのがなるべく遅くなるように少しずつかじりながら食べた。それから、デビル・ドッグズの最後の1箱も同じようにして食べた。

アリスとの会話が、頭の中で何度も繰り返された。それを追い払うようなスイッチが頭の中にあればいいのに、と私は思った。私は、アリスとは100万年経っても2度と出会うことはないのだから、彼女が私のこ

とをどう思おうが関係などないのだと、ずっと自分に言い聞かせようとし続けた。それでも、今この瞬間にも、彼女が自分の分身をたくさん従えて、シャーリー・テンプルが台所でタップダンスをしたと、バスで彼女に話したまぬけな子供のことを笑いながらつつ立っているのではないだろうかと思わずにはいられなかった。そう考えるのは屈辱だったが、本当に困ったのはそのことではなかった。

困ったことは、私がなぜそんなことをしたのかわからなかったということだ。嘘は本当の反対だ。本当はよいことで、嘘は悪いことだ。白と黒しかない。単純なことだ。それでも、私はアリスに正当な理由もなく嘘をついて、今のような気持ちに捕らわれるまで悪いと思うことさえなかった。それは、私にとってどういうことだったのだろうか。

～分析～

① 5W1H

不明な部分もあるが、文中に明記してある情報は確実に押さえ、その他の要素も文中の描写から可能な限り推測してみよう。

● Who

私：主人公。バスで旅をしている。ℓ.27～28やℓ.31～32でバスの運転手の目を気にするくだりから、一人旅にはまだ早い年齢であることがわかる。

バーニー：主人公の保護者的立場で、主人公の母親と一緒にいることがわかる。

大柄な赤ら顔の男性・バスの運転手（2人）：前者は話の流れに関係ない。後者については、主人公は自分がどういう印象を与えるか気にしている。

母親：主人公の母親。バーニーと同じ家におり、バーニーの説明によれば雷雨が大の苦手ようだ。

アリス：名前だけ登場。私と途中まで一緒に旅をしていた。「私を支えてくれる新しい誰か（ℓ.33）」という表現から、別れるまではアリスが私の精神的支えだったと推測される。アリスといろいろあった（ℓ.5）ことや、最後の2つのパラグラフで、私がアリスとのことをあれこれ気にしていることから、私とアリスとの間には何らかのいざこざがあったのだけれど、この英文だけでは詳細はわからない。

● What

私はバスに乗って旅をしている。バーニーと連絡をとって居場所を伝えているところを見ると、無断で家を出たわけではないと推測できる。

● When

季節は不明。冒頭部分に朝だということは明記されている。バス内での描写部分は「寝たり起きたりしていた（ℓ.29）」とあることから数時間が経過していると思われる。

● Where

冒頭部分はソルトレイク・シティー駅構内とされている。ソルトレイク・シティー、ラヴロック、ロック・スプリングスが地名として登場。電話した相手であるバーニーがいる場所は不明だが、母親と一緒にいることはわかる。

● Why

私が旅をしている理由は不明。寂しがって家を恋しく思っていることは明記されており（ℓ.6）、また「（引き返して戻ってくるのを）嫌だと言えない理由を覚えているかどうかともわからなかった（ℓ.8）」とあるから、旅をしている間に何らかの心境の変化があったことはわかる。

● How

移動手段はバス。登場する地名や、運転手が交替するところから（ℓ.30）、長距離バスだろうと予測できる。

② 心理を把握

● バーニーと電話で話す場面

主人公が寂しがって家を恋しく思っていることは明記されている(ℓ.6)。「バーニーに本当のことを話したい(ℓ.5~6)」「たとえバーニーの声を切に聞きたいとしても(ℓ.30~31)」というくだりから、また電話が切れかけた時に、バーニーの名前を連呼している部分からもバーニーに対しては愛情と信頼を抱いている。「Why」でも説明したように、旅をしている間に、何らかの心境の変化があったことはわかる。

● バスの中

運転手の目を気にしていること(ℓ.27~28, ℓ.31~32)から、自分の年齢で一人旅をしていることに不安があることはわかる。食事にわざと時間をかけている部分(ℓ.33~35)も、現実と向かい合うのを避けたいという逃避的心理の現れとみることができる。

● アリスのこと

最後の2つのパラグラフでは、かつての同行者アリスに対して、嘘をついたことを後ろめたく思っていることがわかる。

<全体>

旅をしている動機、人間関係などで不明な部分は残るものの、上記のような内容を把握することは可能である。この文章が入試問題として出題されるなら、上記の情報をもとにして設問が作られる可能性が高い。よって、小説を読む際には、5W1Hと心情を表す表現に注目することが有効と言えよう。

次の会話文を見てみよう。

例題2

- 1 Peter : Hi, Chris, Amanda.
Amanda : Hi, Peter.
Chris : Wow, I haven't seen you in ages. How's everything coming along?
Peter : So-so. Uh, no, actually, I have a problem.
- 5 Amanda : What is it? Can I be of any help?
Peter : Well, I'm planning to make a trip to Mexico with Matt.
Chris : With who?
Peter : Matt. Matt Gilbert. I think you know him. He took Mike Reno's history class last semester.
- 10 Chris : Yeah, I know him. The worst guy I ever knew. Well?
Peter : I'm kind of short on funds.
Amanda : You mean you have no money?
Chris : And you want to borrow some from us, right?
Peter : Yes, right.
- 15 Amanda : How much do you need?
Peter : Ten ... uh, no, twenty bucks would be enough.
Amanda : Twenty? Would that be enough?
Chris : Amanda, wait. You lent him twenty bucks a couple of months ago. I happened to be with you two then, remember? Peter, you didn't return it to her, did you?
- 20 Peter : No, not yet. But I'll try to return the money as soon as possible.
Chris : How soon?
Peter : In two months, I promise.
Chris : Huh, you always promise. Hey, Amanda. Listen. He spent all the money you lent him and is trying to borrow another twenty bucks from you. Is that fair?
- 25 Amanda : Chris. You are always too hard on him. He is not a bad guy.
Chris : Yeah, I have no disagreement with that. He really is a good guy. A bit weak-willed, though.
Peter : Chris. You're right. I'm weak-willed. But I really need ...
Chris : Need friendship or just money? Hey, don't take advantage of her. Otherwise, I'm
- 30 gonna ...
Amanda : Chris, stop. Don't blame him. He is an honest guy. He's just taken advantage of by Matt Gilbert. It's Matt who's to blame.

(オリジナル)

全訳

ピーター：やあ，クリス，アマンダ。

アマンダ：こんにちは，ピーター。

クリス：おや，久しぶりじゃないか。調子はどうだい。

ピーター：まあまあだね。ああ，いや，実はちょっと困っているんだ。

アマンダ：何かしら。私が助けになれるかしら。

ピーター：ええと，マットとメキシコに旅行に行く計画を立てているんだ。

クリス：誰とだつて？

ピーター：マットだよ。マット・ギルバート。君は知っていると思うよ。彼は前の学期でマイク・レノ先生の歴史の授業を取っていたからね。

クリス：ああ，知っているよ。僕が知る限りでは最低な男だね。それで？

ピーター：ちょっと資金不足なんだよ。

アマンダ：お金がないってことなの？

クリス：それで，僕らからいくらか借りたいというわけだ。そうだろう。

ピーター：ああ，その通りだよ。

アマンダ：いくら必要なの？

ピーター：10…，ああ，いや，20ドルなら十分かな。

アマンダ：20ドルですって。それで足りるの？

クリス：アマンダ，待てよ。君は何カ月か前に彼に20ドル貸しただろう。その時に，僕は君たち2人とたまたま一緒にいたんだ。覚えているだろう？ ピーター，君はあの金を彼女に返していないよな。

ピーター：ああ，まだだ。でも，できるだけ早く返そうとはしているんだ。

クリス：どれくらい早くなんだい。

ピーター：2カ月後だ，約束するよ。

クリス：へえ，君はいつも約束はするよな。なあ，アマンダ，聞けよ。彼は君が貸した金を全部使って，さらに20ドルを君から借りようとしているんだぞ。これは理にかなったことなのか。

アマンダ：クリス，あなたはいつも彼にきつく当たりすぎよ。彼は悪い人じゃないのよ。

クリス：そうとも。それにはまったく異議なしだね。彼は本当にいい奴さ。ちょっと意志が弱いけどな。

ピーター：クリス，君の言う通りだよ。僕は意志が弱い。でも，僕は本当に必要で…。

クリス：必要なのは友情か，それとも単に金なのか。おい，彼女を利用するなよ。さもないと，僕は…。

アマンダ：クリス，やめて。彼を責めないでよ。彼は正直な人なのよ。マット・ギルバートに利用されているだけだわ。非難されるべきなのはマットよ。

～分析～

① 5W1H

● Who

ピーター、アマンダ、クリス：学生。最初にクリス、アマンダと一緒にいて、ピーターが後から加わる。ピーターは優柔不断で気が弱そうである。アマンダはピーターにお金を貸そうとしたり、かばったりしているので優しい性格であることがわかる。クリスは正義感が強く歯に衣着せぬタイプだと思われる。

マット・ギルバート：名前だけで登場。ピーターの友人で、クリスも同じ授業を取ったことがあり、名前とその素行の悪さは知っている。

マイク・レノ：名前だけ登場する歴史の先生。話の流れにはまったく関係ない。

● What

ピーターがアマンダとクリスにお金を借りようとしている。

● When

メキシコ旅行の話が出ていることから、長期休暇の前である可能性が高い。

● Where

学校のキャンパスかもしれないが、明記されていない。

● Why

ピーターがお金を借りようとしているのは、マットとメキシコ旅行に行くため。アマンダの最後のセリフ中の「(ピーターは) マット・ギルバートに利用されているだけ」から、マットが気の弱いピーターに性質の悪い入れ知恵をした可能性がある。

● How

ピーターはお金を貸してくれと直接言わず、遠回しに表現している。クリスがピーターの本音を先回りして指摘している。

② 心理を把握

入試問題となる会話文は設問の都合上から、登場人物の性格がわかりやすく、また立場もはっきりしていることがほとんどである。各人物の性格、立場をすばやく把握するようにしたい。

ピーター：お金を貸してほしいと直接言えないこと、必要な金額を言い淀んでいることから、気が弱く、またアマンダに対して後ろめたさを感じていると思われる。

アマンダ：自ら相手の必要額を質問していること、お金を貸す姿勢をすぐに見せていること、過去にもお金を貸していることから、ピーターに対して警戒心、猜疑心はあまりないと考えられる。また、クリスに向かってピーターを擁護し、マット・ギルバートを悪者扱いしていることから、ピーターに対しては好意的である。

クリス：冒頭でピーターに挨拶をしているし、お金の話が出るまでは敵意を示してはいないので、本来はピーターに悪い感情は持っていない。お金の話が出た後は、ピーターを非難している。マット・ギルバートに対しては露骨に嫌悪を示している。正義感や公平さを求める姿勢が彼の身上だと思える。

★ 会話らしい表現に慣れる

最後に今回の会話文の表現をいくつか説明していく。会話表現の出題比率は年々増加しているので、よく出てくる口語表現に慣れるとともに、会話ならではの、やりとりの呼吸にも慣れておこう。

- ℓ.4 So-so. : 「まあまあ；悪くはない」たいしてよくも悪くもない、というニュアンス。
- ℓ.7 With who? : 聞き取れなかった部分を疑問詞にして問い返す方法で, echo question (問い返し疑問) と呼ばれる。なお, With whom? とするのが文法的に正確だが, 口語では疑問詞 whom を主格の who で代用することが多い。
- ℓ.10 Yeah. : Yes. の口語表現。
- ℓ.11 kind of : 「ちょっと；かなり；いくぶん」言いにくいこと, 断定しにくいことをぼかす効果がある。
- ℓ.12 You mean you have no money? : 疑問文の語順ではないが, Do you mean ~? とほぼ同意。普通, 語尾を上げて言うので相手には疑問文だとわかる。
- ℓ.13 ..., right? : 自分の発言について相手に同意を求める時に使う。
- ℓ.20 not yet : 省略を補うと, I haven't returned it, yet. となる。
- ℓ.21 How soon? : ピーターの発言中の as soon as ... という言葉尻をとらえた皮肉。
- ℓℓ.26~27 A bit weak-willed, though. : この though は副詞。前言に対して, 譲歩の内容を付加する時に使う。
- ℓ.29 Need friendship or just money? : ピーターの直前の発言 But I really need ... を横取りするように引き継いで, 皮肉をぶつけている。
- ℓℓ.29~30 I'm gonna : I'm going to の口語表現。

次の英文を読んで、後の設問に答えよ。

(50点)

1 The first time I ran away from school I was ten. Two older guys talked me (a)
it. They were brothers and they'd both been in and out of *Juvenile Hall five times. They
told me it would just be like taking a short vacation. So I went. We stole three bikes out
of a back yard and took off for the Arroyo Seco. The bike I stole was too big for me so I
5 could never sit up on the seat all the way. I pedaled standing.

We hid the bikes in a stand of Eucalyptus trees at the edge of the Arroyo and went
down to the creek. We caught *Crawdads with marshmallow bait, then tore the shells
(b) them and used their meat to catch more Crawdads. When lunch time came, I
had to share my lunch with the brothers because they'd forgotten to bring theirs. I
10 spread the contents of the paper bag out on a big flat rock. A carrot wrapped in wax
paper with a rubber band around it. A meatloaf sandwich. A melted bag of M and M's.
They ate the M and M's first. Tore the package open and licked the chocolate off the
paper. They offered me a lick but I c declined. I didn't eat any of the meatloaf sandwich
either. I always hated meatloaf. Especially cold and between bread.

15 The rest of the afternoon we climbed around in the hills looking for snakes until one
of them got the idea of lowering our bikes down into the *aqueduct and riding along the
dry bed until we reached Los Angeles. I said "yes" to everything even though d I
suspected L.A. was at least a hundred miles away. The only other time I'd ever been to
Los Angeles was when my Aunt took me to the Farmer's Market in her *45 Dodge to
20 look at the Myna birds. I must have been six then.

I climbed the chain-link barrier fence while the two brothers took the tension out of
the barb-wire strands at the top. Enough so I could straddle the fence, get one foot on the
concrete wall of the aqueduct and drop some ten or twelve feet to the bottom. Then they
lowered the bikes down to me, suspended on their belts. We rode for miles down this
25 giant corridor of cement, the wheels of our bikes bumping over the brown lines of caulking
used to seal the seams. Except for those seams it was the smoothest, flattest surface I'd
ever ridden a bike on.

We rode past red shotgun shells faded by the sun, dead opossums, beer cans, Walnut
shells, Carob pods, a Raccoon with two babies, pages out of porno magazines, hunks of
30 rope, inner tubes, hub caps, bottle caps, dried-up Sage plants, boards with nails, stumps,
roots, smashed glass, yellow golf balls with red stripes, a lug wrench, women's underwear,
tennis shoes, dried-up socks, a dead dog, mice, Dragon Flies screwing in mid-air, shriveled-
up frogs with their eyes popped out. We rode for miles until we came to a part that was
all enclosed like a big long tunnel and we couldn't see light at the other end. We stopped
35 our bikes and stared through the mouth of that tunnel and I could tell they were just as
scared as I was even though they were older. It was already starting to get dark and
e the prospect of getting stuck in there at night, not knowing how long the thing was or
what town we'd come out in or how in the hell we were going to climb back out once we

came to the end of it, had us all wishing we were back home. ⑥ [feel / but / we /
40 none of us / wished / passing / could / said / that / it / I] between us.

*Juvenile Hall : 「少年鑑別所」 *Crowdad : 「ザリガニ」

*aqueduct : 「送水路」 *45 Dodge : 「45年型ダッジ」(乗用車の名称)

(★およそ 620 words)

Motel Chronicles by Sam Shepard

- (1) 空所①に入れるのに最も適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えよ。(6点)
- a into b with c out of d through
- (2) 空所②に入れるのに最も適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えよ。(6点)
- a for b by c with d off
- (3) 下線部③の意味として最も適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えよ。(6点)
- a bent my neck downward b nodded my head
c didn't feel like it d refused to do it politely
- (4) 下線部④の意味として最も適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えよ。(5点)
- a ロサンゼルスまで少なくとも100マイルはあるとは考えられなかった
b ロサンゼルスまで少なくとも100マイルあるのではないかと思った
c ロサンゼルスまで少なくとも100マイルはあるはずだということはよくわかっていた
d ロサンゼルスまで少なくとも100マイルあることを彼らはわかっているのではないかと思った
- (5) 下線部⑤の内容を75字以内の日本語で説明せよ。ただし、句読点も字数に含む。
(15点)
- (6) カッコ⑥内の語句を「誰もそうしたいとは口に出して言わなかったが、その気持ちが流れているのを僕は感じる事ができた。」という意味になるように、並べ換えよ。ただし、文頭にくるべき語も小文字で示してある。(12点)

問題

次の英文を読んで、後の設問に答えよ。

(50点)

- 1 ① The first time I ran away from school I was ten. Two older guys talked me (a)
it. They were brothers and they'd both been in and out of *Juvenile Hall five times. They
told me it would just be like taking a short vacation. So I went. We stole three bikes out
of a back yard and took off for the Arroyo Seco. The bike I stole was too big for me so I
5 could never sit up on the seat all the way. I pedaled standing.
- ② We hid the bikes in a stand of Eucalyptus trees at the edge of the Arroyo and went
down to the creek. We caught *Crawdads with marshmallow bait, then tore the shells
(b) them and used their meat to catch more Crawdads. When lunch time came, I
had to share my lunch with the brothers because they'd forgotten to bring theirs. I
10 spread the contents of the paper bag out on a big flat rock. A carrot wrapped in wax
paper with a rubber band around it. A meatloaf sandwich. A melted bag of M and M's.
They ate the M and M's first. Tore the package open and licked the chocolate off the
paper. They offered me a lick but I c declined. I didn't eat any of the meatloaf sandwich
either. I always hated meatloaf. Especially cold and between bread.
- 15 ③ The rest of the afternoon we climbed around in the hills looking for snakes until one
of them got the idea of lowering our bikes down into the *aqueduct and riding along the
dry bed until we reached Los Angeles. I said "yes" to everything even though d I
suspected L.A. was at least a hundred miles away. The only other time I'd ever been to
Los Angeles was when my Aunt took me to the Farmer's Market in her *45 Dodge to
20 look at the Myna birds. I must have been six then.
- ④ I climbed the chain-link barrier fence while the two brothers took the tension out of
the barb-wire strands at the top. Enough so I could straddle the fence, get one foot on the
concrete wall of the aqueduct and drop some ten or twelve feet to the bottom. Then they
lowered the bikes down to me, suspended on their belts. We rode for miles down this
25 giant corridor of cement, the wheels of our bikes bumping over the brown lines of caulking
used to seal the seams. Except for those seams it was the smoothest, flattest surface I'd
ever ridden a bike on.
- ⑤ We rode past red shotgun shells faded by the sun, dead opossums, beer cans, Walnut
shells, Carob pods, a Raccoon with two babies, pages out of porno magazines, hunks of
30 rope, inner tubes, hub caps, bottle caps, dried-up Sage plants, boards with nails, stumps,
roots, smashed glass, yellow golf balls with red stripes, a lug wrench, women's underwear,
tennis shoes, dried-up socks, a dead dog, mice, Dragon Flies screwing in mid-air, shriveled-
up frogs with their eyes popped out. We rode for miles until we came to a part that was
all enclosed like a big long tunnel and we couldn't see light at the other end. We stopped
35 our bikes and stared through the mouth of that tunnel and I could tell they were just as
scared as I was even though they were older. It was already starting to get dark and
e the prospect of getting stuck in there at night, not knowing how long the thing was or
what town we'd come out in or how in the hell we were going to climb back out once we

came to the end of it, had us all wishing we were back home. ⑥ [feel / but / we /
40 none of us / wished / passing / could / said / that / it / I] between us.

*Juvenile Hall : 「少年鑑別所」 *Crawdad : 「ザリガニ」

*aqueduct : 「送水路」 *45 Dodge : 「45年型ダッジ」(乗用車の名称)

(★およそ 620 words)

Motel Chronicles by Sam Shepard

(1) 空所①に入れるのに最も適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えよ。(6点)

a into b with c out of d through

(2) 空所②に入れるのに最も適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えよ。(6点)

a for b by c with d off

(3) 下線部③の意味として最も適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えよ。(6点)

a bent my neck downward b nodded my head
c didn't feel like it d refused to do it politely

(4) 下線部④の意味として最も適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えよ。(5点)

a ロサンゼルスまで少なくとも100マイルはあるとは考えられなかった
b ロサンゼルスまで少なくとも100マイルあるのではないかと思った
c ロサンゼルスまで少なくとも100マイルはあるはずだということはよくわかっていた
d ロサンゼルスまで少なくとも100マイルあることを彼らはわかっているのではないかと思った

(5) 下線部⑤の内容を75字以内の日本語で説明せよ。ただし、句読点も字数に含む。

(15点)

(6) カッコ⑥内の語句を「誰もそうしたいとは口に出して言わなかったが、その気持ちが流れているのを僕は感じる事ができた。」という意味になるように、並べ換えよ。ただし、文頭にくるべき語も小文字で示してある。(12点)

ポイント

今回の小説は少年たちの「冒険」について書かれたものだが、自分よりも年上の「ガキ大将」の兄弟に誘われた主人公の冷めた目を通して「冒険」が描写されている。その時々主人公の「目」に注目して読んでみると面白いのではないだろうか。

解答

(1) a (2) d (3) d (4) b

(5) 「トンネルの長さがどれくらいか、どの町に出るのか、またトンネルを抜けたらどうやって這い上がるかわからずに、夜中そこで動けなくなるのではないかという思い。」(75字)

(6) None of us said we wished that but I could feel it passing

解説

(1) 第1パラグラフの内容は、主人公を含む子供3人が学校を抜け出し、盗んだ自転車で川に遊びに行くというものだ。空所の後ろにある it は

前文の内容, つまり「学校を抜け出したこと」を指す。two older guys が主人公に言った言葉 it would just be like taking a short vacation と, その後の So I went. から, 空所を含む文の内容を推測すると, two older guys が主人公に「学校を抜け出さないか」と誘ったのだと判断できる。talk ~ into ... で「~を説得して...させる」の意を表す。したがって正解は **a**。c の out of を使った talk ~ out of ... (～を説得して...するのをやめさせる) もぜひ覚えておこう。

Ex. She talked me into taking a week's holiday, but my boss talked me out of it. (彼女は1週間休みを取るよう私を説得したが, 上司はそうしないようにと私を説得した。)

(2) Crawdad (ザリガニ) を釣る場面である。少年たちがマシユマロを餌にして Crawdad を釣った後で ... used their meat to catch more Crawdads とある状況を理解するのがポイント。先に釣った Crawdad の身 (meat) を餌にするには, Crawdad の殻を剥ぎとる必要がある。したがって tore the shells off them となる。d が正解。

(3) 主人公は自分が昼食用に持ってきた M and M's (エムアンドエムズ: チョコレートの商品名) を2人の少年にあげる。M and M's は溶けていたので2人は包み紙をなめ, 主人公にもなめるように勧める。それに続くのが but I declined である。decline は, to refuse something offered, usually politely の意味なので, 「丁重に断った」のである。したがって正解は **d**。次の I didn't eat ... either. も重要な手がかりになるだろう。その他の選択肢の意味はそれぞれ, **a** 「首を下に曲げた」, **b** 「首を縦に振った」, **c** 「その気にならなかった」である。

(4) この問題も語彙力を試す問題である。suspect は「嫌疑〔容疑〕をかける; 怪しいと思う」などの意味だが, that 節を伴うと think that something is probably true or likely, especially something bad という意味であることに注意しよう。doubt との違いをはっきりさせておくこと。正解は **b**。

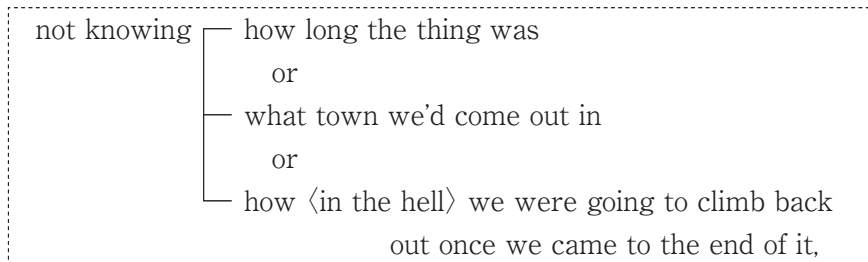
Ex. I suspect that his knowledge does not amount to much. (彼の知識はたいしたことはないんじゃないかと私は思っている。)

cf. I doubt her kindness. (彼女が親切かどうかは疑わしい。)

◀ off は「～から (離れて)」の意。

(5) 下線部以下の構造は、次の通り。

the prospect <of getting stuck in there at night>,
 S ↑



had us all wishing {we were back home}

 V O C

主部がとても長い文である。not knowing … は getting stuck in there at night を修飾する分詞構文。the prospect of の of が同格関係を表すことがわかれば、「～という予想」の「～」に当たる of 以降の内容を制限字数内でまとめればよいとわかるであろう。

(6) まず「誰もそうしたいとは口に出して言わなかったが」の部分だが、与えられた語句の中に none of us があるので、これを主語にすればよいとわかる。「口に出して」は said で十分。said の目的語となるのは「そうしたい」の部分だが、「そうしたい」のは「私たち」であるので we wished that という節が作れる。これをまとめると None of us said we wished that となる。次に後半の「その気持ちが流れているのを僕は感じる事ができた」である。I could feel は簡単に並べられるだろう。ポイントはこの feel という知覚動詞である。feel O …ing で、「Oが…するのを感じる」という意味を表すことを思い出してほしい。これを使えば、I could feel it passing と組み立てられよう。したがって全体では、None of us said we wished that but I could feel it passing となる。

◀ in the hell は疑問詞の直後で「いったいぜんたい」の意味を表す。

◀ 語句整序問題では、S V O Cなどの文の要素がどれかを考えて組み立てる。

注

- l. 4 arroyo *n.* 「アロヨ；小峡谷」
- l. 6 eucalyptus *n.* 「ユーカリ」
- l. 7 creek *n.* 「小川」
- l. 7 bait *n.* 「餌」
- ll. 10~11 wax paper 「パラフィン紙；ろう紙」
- l. 12 lick ~ *vt.* 「～をなめる」 *cf.* lick *n.* (なめること) (l. 13)
- l. 20 myna bird 「ムクドリ」
- l. 21 chain-link *adj.* 「(金網などが) ダイヤモンド状の編み目の」
- l. 21 tension *n.* 「ぴんと張っていること」
- l. 22 barb-wire *n.* 「有刺鉄線」
- l. 22 strand *n.* 「(針金・ひもなどの) 1本」
- l. 22 straddle ~ *vt.* 「～をまたぐ」
- l. 24 suspend ~ *vt.* 「～をつるす [ぶら下げる]」

- l. 25 caulking *n.* 「コーキング (水漏れなどを防ぐために用いるタールなど)」
- l. 26 seam *n.* 「継ぎ目」
- l. 28 opossum *n.* 「フクロネズミ ; オポッサム」
- l. 29 carob *n.* 「イナゴマメ」
- l. 29 pod *n.* 「さや」
- l. 29 hunk *n.* 「大きな塊」
- l. 30 inner tube 「(タイヤの中の) チューブ」
- l. 30 hub *n.* 「(車輪の) ハブ」
- l. 31 lug wrench 「耳付きナット用スパナ」
- l. 32 shrivel ~ *vt.* 「~をしぼませる」

全訳

- ① 僕が初めて学校を抜け出したのは10歳の時だった。年上の2人が僕にそうしようと誘ったのだ。その2人は兄弟で、それまで少年鑑別所に5回出たり入ったりしていた。彼らは僕に、ちょっと短い休暇を取るようなものと言った。それで行くことにした。僕たちはある家の裏庭から自転車を3台盗んで、セコ峡谷へと向かった。僕が盗んだ自転車は僕には大きすぎたので、ずっとサドルに座ることができなかった。僕は立ったままペダルを踏んだ。
- ② 僕たちは自転車を峡谷の淵のユーカリの木立の中に隠して小川へ降りて行った。僕たちはマシュマロの餌でザリガニを釣った。次に、ザリガニの皮を剥いで、その肉を使ってもっとザリガニを釣った。昼飯時になると、僕は自分の弁当をその兄弟と分け合わなければならなかった。なぜなら、2人は自分の弁当を持ってくるのを忘れたからだ。僕は紙袋の中身を大きな平べったい岩の上に広げた。パラフィン紙で包み、その上から輪ゴムをかけたニンジン。ミートローフ・サンド。溶けたエムアンドエムズのチョコレートが1袋。彼らはエムアンドエムズをまず食べた。包みを破って開け、紙についたチョコレートをなめた。彼らは僕にもなめるように勧めたが、僕はいいよと断った。僕はミートローフ・サンドも一口も食べなかった。ミートローフは好きになった試しがない。特に冷たくてパンに挟んだのは大嫌いだ。
- ③ 残りの午後の時間は、丘をあちこち登り、へびを探したが、そのうち兄弟の1人にある考えが浮かんだ。自転車を送水路に降ろし、乾燥した路床を走ってロサンゼルスまで行こうというものだ。僕は何にでも「いいよ」と言った。ロスまで少なくとも100マイルはあるんじゃないかと思っ
てはいたんだが。それまで僕がロスに行ったのは1回きりで、その時は、おばさんが僕を'45年型のダッジに乗せてファーマーズ・マーケットに連れて行き、ムクドリを見せてくれた。確か僕が6歳の時だ。
- ④ 僕は鉄条網を登り、その間にその2人の兄弟は鉄条網の上にある有刺

◀ 5 W 1 Hを確認しよう！

who
主人公である僕
2人の兄弟

when
主人公が10歳のある日

where
セコ峡谷

what
学校を抜け出し、盗んだ
自転車で峡谷にサイクリ
ングに行った。

why
主人公たちはどうして家
に帰りたくなったのか。

how
ロサンゼルスまで走って
いくという無謀な冒険が、
次第に少年たちの心に不
安の陰を落としていく。

鉄線を緩めた。有刺鉄線が十分緩んだところで僕はフェンスをまたぎ、送水路のコンクリートの壁に片足をつき、10~12フィート飛び降りて地面に降りた。次に、彼らが自転車をベルトにつるして僕の方に降ろしてきた。僕たちはこの巨大なセメントの廊下づたいに何マイルも走った。自転車の車輪はコーキングの茶色の線の上でがたがた音を立てた。これは継ぎ目を塞ぐものだ。この継ぎ目を除けば、これほど滑らかで平らな表面を自転車で走るのは初めてだった。

⑤ 僕たちはいろいろな物の中を走って行った。太陽で色褪せた散弾銃の赤い薬莢^{やつきょう}、フクロネズミの死骸、ビールの空き缶、くるみの殻、イナゴマメのさや、2匹の赤ん坊をつれたアライグマ、ポルノ雑誌から破り取られたページ、ロープの束、タイヤのチューブ、ハブのキャップ、びんのキャップ、干からびたセージの苗、釘の刺さった板、切り株、根っこ、ガラスの破片、赤い縞模様の付いた黄色いゴルフボール、耳付きナット用スパナ、女性の下着、テニスシューズ、干からびた靴下、犬の死骸、ネズミ、空中で交尾しているトンボ、目の飛び出ているしなびた蛙。何マイルも走った後、大きな長いトンネルのように周囲がすっぽり囲まれた所に来た。反対側に光は見えなかった。僕たちは自転車を止め、目を凝らしてそのトンネルの入口から中をじっと見つめた。その時僕には、その兄弟が僕と同じくらい怯えていることがよくわかった。彼らの方が僕より年上なのに。もう暗くなりかけていて、夜そこで立ち往生してしまうんじゃないか、この長さがどのくらいかわからず、どんな町に出るのかもわからず、またトンネルの端に着いた時、一体どうやってそこから這い出るのがわからないままに、という思いが僕たちみんなに、家に帰りたいという気持ちを起こさせた。誰もそうしたいとは口に出して言わなかったが、その気持ちが僕たちの間に流れているのを僕は感じ取ることができた。

Let's check! 重要表現

①.5 **all the way** 「途中ずっと」

Ex. She smoked non-stop *all the way* to London. (彼女はロンドンに着くまでずっと休みなくタバコを吸っていた。) (OALD)

①.34 **enclose** ~ vt. 「~を囲む」

Ex. The walls *enclose* a small courtyard. (壁が狭い中庭を囲んでいる。) (OALD)